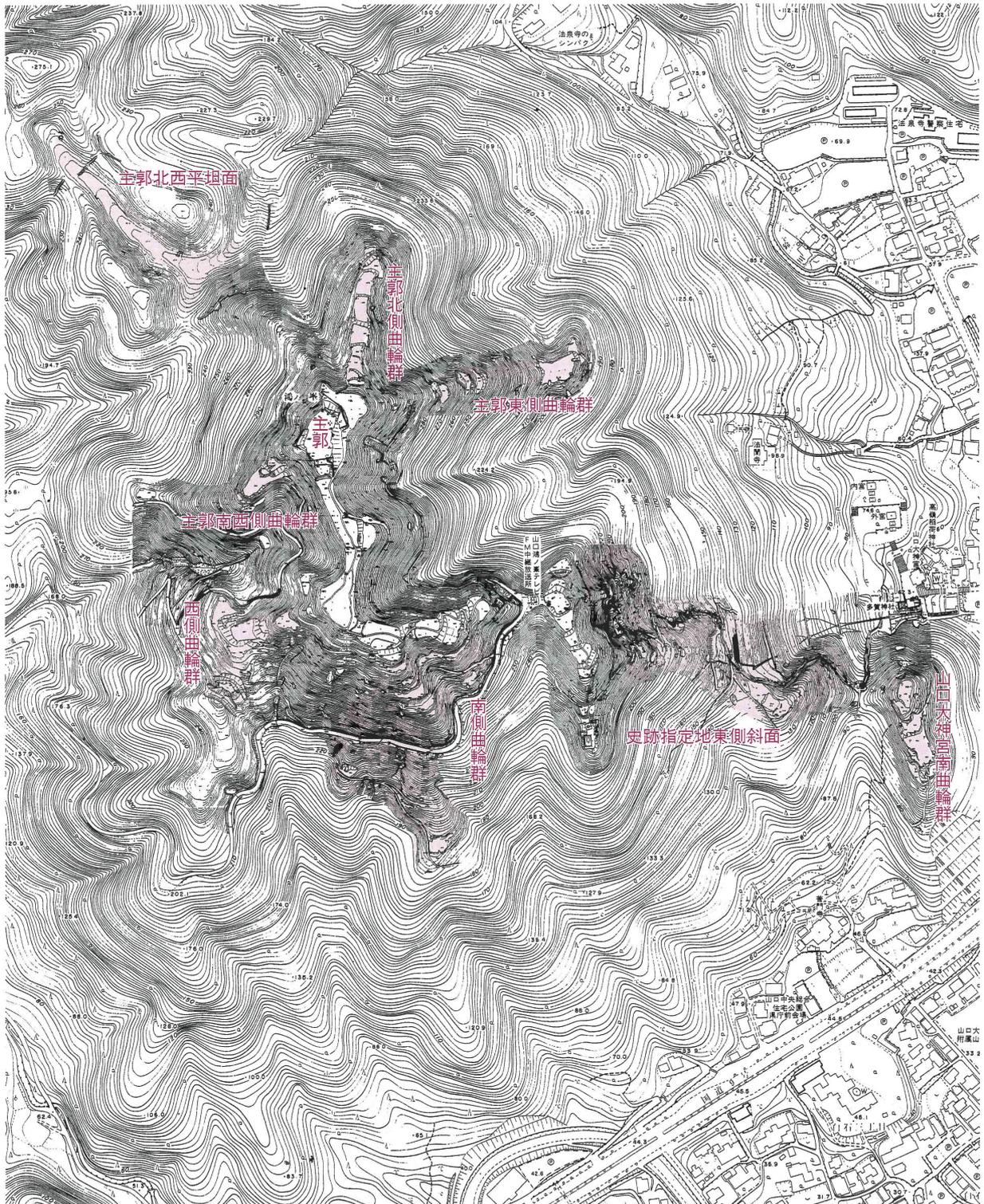


いては高位に位置する3つの曲輪が図化されていた。各曲輪とも地形の制約を受け、半円形または三角形を呈すが、第4段目（曲輪4）は曲輪前面を直線的にカットし、平面形は台形状を呈す。

この尾根のさらに低所には堀切が2条ある（堀切1・2）。これらは尾根筋と直交する方向に穿たれており、平面形は直線的ではなく緩い弧状を呈す。断面形は逆台形を呈す。堀切は南北に並んでおり、北側の堀切1は長さ約40m、最大幅約10m、深さ約3mを測る。南側の堀切2は長さ約35m、最大幅約13m、深さ約7mを測る。両堀切の間には、土塁と考えられる高まりが見られる。本尾根の堀切より低位に城郭関連遺構が見られないことからこれら2条の堀切は城域を画す役割を持つものと考えられる。



第4図 高嶺城跡曲輪群分布図（1：6,000）